

県民投票を力に辺野古基地建設を阻止

久手堅幸子（安保廃棄・くらしと民主主義を守る沖縄県統一行動連絡会議）

やりました！ うちなんちゅは再び「誇りある豊かな沖縄」を選択しました。投票率 52.4%、埋め立て反対は投票総数の 71.7%にあたる 43 万 4273 票。条例で定めた知事が日米両政府に通知するとして 29 万票をはるかに上回り、昨年のデニー知事が獲得した 39 万票を超えるものです。自民党や公明党支持層も含めて「辺野古新基地建設ノー」を選択し、新たな歴史的到達点を築いた。これこそが最大の法的根拠です。

昨年 8 月、翁長県知事の急逝。その遺志を引き継ぐデニー知事の歴史的圧勝で基地建設は止まるという希望が湧きました。しかし、現実には 12 月 14 日、辺野古の海への土砂投入、300 台ものダンプが土砂を満載し粉塵と排気ガスをまき散らしながらゲート入口に入る、それを必死に止めようとプラカードを手に抗議し、声をあげ、座り込む市民。排除しようと手足をひっぱる機動隊。悔しさと憤りで涙がこぼれます。「一体、この国は何なんだ。この島は誰のものだ」と。

土砂投入と共に座り込みは辺野古と合わせて琉球セメント安和棧橋が加わり、ここでも土砂満載のトラックが次々と棧橋に入っていきます。なぜか棧橋周辺は中が見えぬようにテントが張り巡らされ、隙間には有刺鉄線が張り巡らされています。

棧橋前でも 200 台にも及ぶトラックを止めることはできません。が、素通りさせるのも悔しくトラックの進入を 1 台でも 2 台でも少なくしようと横断歩道を牛歩で歩き続けることを繰り返しています。

12 月 14 日の土砂投入の翌日から、何としてもこの怒りを県民投票の成功で示そうと横断幕を作成し、スタンディングや街宣行動をスタートさせました。

しかし、「市議会の判断」を理由に「オール沖縄」に対抗する「チーム沖縄」の保守系市長 5 市が不参加を表明、全県実施は困難かと思われましたが、それに対する市民の怒りが収まらず、電話、ファクス、市役所前の抗議行動と相次ぎ、市役所の業務も滞り、市長たちも市民の声を無視できず、参加と表明もできずと窮地に立たされ、解決策として「賛成」「反対」「どちらでもない」の 3 択が県議会にかけられます。14 人の自民党県議が県民投票に賛成・反対・退席という 3 択に迫られた結果、投票まで後一月と迫った 1 月 24 日、全県実施が実現。しかも国は県民投票を諦めさせようと絶対に造られるはずもない基地工事を急ピッチで進め、私たちは座り込みに行き、帰ってきた足でスタンディング、宣伝カーによる街頭宣伝と宣伝活動を強化し、全県でもスタンディングやハンドマイク作戦が繰り広げられていきました。

県民投票成功に向けて何よりも力強かったのは若者達の活動です。県民投票が若者の願いから生まれたこともあり、各地で様々な行動が展開されました。

フリースクールの小・中・高校生が子どもシール投票を行い、子ども達が自分の言葉で訴える。レゲエやラップで楽しい県民投票音楽祭を開催、ママの会による手作りプラカードや楽器を鳴らしながらのファミリーパレード。魂魄の塔から辺野古まで 78.7 キロの行進、県内各地の大学生による学習会と。

彼らの発想の楽しさと新鮮さはこれからの時代の新しい活動をつくりだしていくことでしょう。

しかし安倍総理は「県民投票の結果を真摯に受け止める」と言いながら、翌日には工事を継続。この理不尽さは他県や世界中の人たちからも批難を浴びることでしょう。

私たちは「安倍政権のおわりの始まり」という新たなスタートに立ちました。来るべき参議院選は大きなチャンスです。

「勝つまであきらめない」

「心ひとつに闘えば必ず勝利する」

全力で闘い抜こうではありませんか。